

## はじめに

わが国における放送大学の開学は、遠隔高等教育の今日的な重要性を改めて浮彫りにするものであった。高等教育は、高度な知識を伝達するためのコミュニケーション・システムであり、各種のメディアの発達は、即座にそのシステムの拡大に寄与してきている。社会において知識の分布は常に偏在性を示し、その偏りを正すために教育システムの活用と再編成がはかられる。情報化社会の到来は、社会に流通する知識の量を拡大するとともに、知識の偏りを急速に正していく傾向を促進することとなった。遠隔高等教育は、そういった情報化社会の発展過程において発生する必然的な教育の形態であった。

しかし、放送大学の教育システムが、世界の遠隔高等教育の潮流の中では、ある意味で特殊なものである点を、われわれは見失いがちである。というのも、自前の放送局を有し、毎日36時間（テレビとラジオをあわせて）にわたって授業番組を提供しているような遠隔高等教育機関は他には存在しないからである。そのために、われわれは放送大学のシステムを基準に、世界の遠隔高等教育の事情を比較検討することになるが、それはあくまで一つの特異な見方に過ぎないのである。

本研究報告では、世界的な視野に立ちながら、遠隔高等教育の現状をあきらかにし、その展望を見通すことを目指している。この研究の基礎となったのは、放送教育開発センターが創立以来進めてきた遠隔高等教育に関する各種の研究開発事業であり、それらの研究に関わった多数の内外の方々から寄せられた貴重な情報や見解をもとにしている点を銘記しておきたい。